

作成番号:0257

=====

一般社団法人 日本侵襲医療安全推進啓発協議会 「会員向けメールマガジン」

=====

号数:2025-257

\*\*\*\*\*

内容:世界中で大腸がん罹患する若者が増えている!

出典:Colorectal cancer incidence trends in younger versus older adults: an analysis of population-based cancer registry data.

The Lancet. Oncology. 2025 Jan;26(1);51-63.

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/39674189/>

\*\*\*\*\*

世界中で大腸がん罹患する若者が増えているかを、米国がん協会 (ACS) ががんサーベイランス研究の研究者らが調査して、その結果は、「The Lancet Oncology」に 12 月 11 日掲載された。

大腸がん罹患率に関する世界保健機関 (WHO) 国際がん研究機関のデータベースを用いて、若年層 (50 歳未満) と高齢層 (50 歳以上) における大腸がんの発症率の傾向を比較した。世界の 50 カ国における 2017 年までの大腸がんの診断年、性別、5 年ごとの年齢グループの発症データが含まれていた。その結果、直近 10 年間 (2008~2017 年) の若年性大腸がん罹患率の年平均変化率 (average annual percentage change; AAPC) は 50 カ国中 27 カ国で上昇していることが示された。特にニュージーランド (AAPC 3.97%)、チリ (3.96%)、プエルトリコ (3.81%)、英イングランド (3.59%) では、顕著な上昇が認められた。一方、高齢層での AAPC に関しては、これら 27 カ国中 14 カ国で変化が認められないか (アルゼンチン、フランス、アイルランド、ノルウェー、プエルトリコ)、低下していた (オーストラリア、カナダ、ドイツ、イスラエル、ニュージーランド、スロベニア、イングランド、スコットランド、米国)。また、若年層と高齢層の双方で AAPC に上昇傾向が認められた 13 カ国のうち、チリ、日本、スウェーデン、オランダ、クロアチア、フィンランドでは若年層の AAPC の方が高齢層よりも高かったのに対し、タイ、マルティニーク (フランス海外県)、デンマーク、コスタリカでは若年層の AAPC の方が高齢層よりも低かった。直近 5 年間 (2013~2017 年) における 10 万人年当たりの若年性大腸がんの年齢調整罹患率 (ASR) は、オーストラリア (16.5)、米国 (14.8)、プエルトリコ (15.2)、ニュージーランド (14.8)、韓国 (14.3) で特に高く、ウガンダ (同 4.4) とインド (同 3.5) で低かった。

若年性大腸がんの増加は世界的な現象で、これまでの研究では主に高所得の西側諸国での増加が確認されていたが、今や世界中のさまざまな経済状況の国や地域で記録されている。

